

新しくいった本

大人の本

『孤舟』(渡辺淳一著 集英社)★リクエスト『流跡』(朝吹真理子著 新潮社)『夢を見るために毎朝僕は目覚めるのですー村上春樹インタビュー集 1997-2009』(村上春樹著 文藝春秋)『ことばに会う』(島森路子著 天野祐吉作業室)『いのちの森の台所』(佐藤初女著 集英社)『新しい人生』(オルハン・パムク著 藤原書店)※ノーベル文学賞受賞作家『バースディ・ストーリーズ』(村上春樹編訳 中央公論新社)『アッシジの聖フランチェスコ』(ジャック・ルゴフ著 岩波書店)★リクエスト『千の風になって』紙袋に書かれた詩(井上文勝著 ポプラ社)『図書館で出会う 100冊』(田中共子著 岩波ジュニア新書)『絵本 Book end [特集] 生誕100年赤羽末吉』(絵本学会)『骨博士が教える「老いない体」の作り方』(鄭雄一著 ワック)『100歳まで現役で生きる人のシンプルな習慣』(佐藤俊彦著 幻冬舎メディアコンサルティング)

♥いただきました。

『打ちのめされるようなすごい本』(米原万理著 文藝春秋)『灰色の輝ける贈り物』(アリスティア・マクラウド著 新潮社)『勝っても負けても』(池田晶子著 新潮社)『人生のほんとう』(池田晶子著 トランスビュー)『センセイの鞆』(川上弘美著 新潮文庫)『銀座に生きる』(鈴木真砂女著 角川文庫)『居眠り磐音江戸双紙 34』(佐伯泰英著 双葉文庫)

文庫あれこれ◆アメリカにいる次女が、文庫にとクリスマス・リースを送ってきてくれました。◆クリスマスと言えば、いつか語りた「クリスマスローズのはなし」という不思議で胸があつくお話があります。長くて文庫の子どもたちには無理だろうなと思いつつまだ憶えていないのですが、いつか文庫の庭に本当のクリスマスローズを咲かせたいな、も夢のひとつ。◆老母の住むマンションの上の部屋の排水管が古くなって漏れ出し、数年の月日を経て母の衣裳部屋の天井を伝っておちた水が茶箱や桐箱にかかり、大変なことになりました。天井を直す際、着物や洋服類の手当てのほかにも多趣味だった母の製作した書画ほか絵の道具、書道の道具、色紙や紙類をそろうと始末しようとした。しかし、日にち、時間、さらには夢うつつの感覚も定かなくなってきたのに、母、私の一挙手一投足をうすら眺めて、それこれは私が死ぬまで捨てないで、と物申す…。嗚呼、今回も荷物の移動に時と腰痛を来たすのみ。◆冬の伊豆高原も好きです。しんとしてきりっとして。◆温故知新、ときに、昔読んだ本も再読したくなります。いただいて未整理のままの本たちを書架に並べねばと思いつつスペースがない秋の暮れです。(西村)

会員みなさんに呼びかけ!

『沙羅の樹文庫 5周年記念文集 私の好きな本』作成について。

来年夏で、沙羅の樹文庫は5周年を迎えます。毎月の開館日には、当初考えてもみなかったたくさんの会員の方々が文庫に集ってくださいます。赤ちゃんだった子どもたちが、もう1人前に好きな本を選んで借りていきます。これから何年続けられるかわかりませんが、できる限りみなさんと本をつなぐ場所、語らいの場所として続けていきたいです。そこで、5周年を記念して、会員みんなの文集を出したいと考えます。詳細は別紙にてお知らせします。ごぞってご参加くださると嬉しいです。(さらのき)

これからの催し物は!

★クリスマスおはなし会・おたのしみ会★

12月19日(日)10:30AM~12:00

参加者は、ひとつ300円程度のプレゼントをご用意ください。クリスマスツリーを囲んでプレゼント交換があります。

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆12月は18、19日の通常開館です。

◆**ご注意ください! 新年2011年1月は変則22日(土)、23日(日)になりました!**

◆2月は通常、19日(土)、20日(日)開館。

◆3月は通常、20日(土)、21日(日)開館

※文庫の時間: 土曜日は午後2時~5時、日

曜日は午前10時~午後3時

※毎月開館日の日曜には、「子どものための

小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会(おはなし・沙羅)

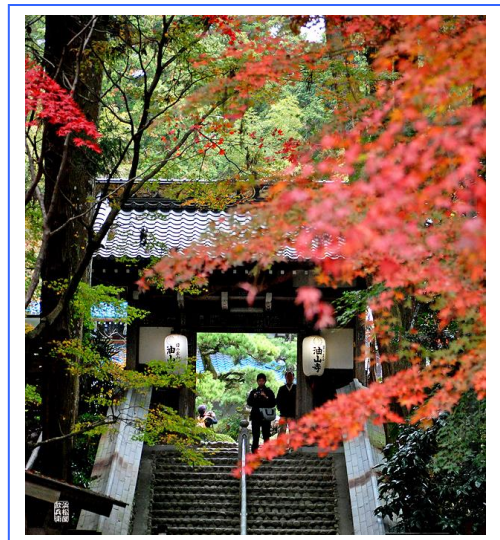
★12月は18日(土)AM。クリスマス会のリハーサルです。

連絡先: 沙羅の樹文庫

電話 0557-51-3737

沙羅の樹文庫便り

No.51 (2010年11月号)



袋井市にある油山寺の紅葉

風に吹かれて坂道をカラコロと枯葉がころがってきます。大鳥がくっきりと見える季節になりました。今年は短い秋が偲ばれますが、やっぱり冬はちゃあんとやってくるのですね。紅葉狩りというと、2むかし前、京都南禅寺の紅葉に目も心も奪われた思い出があります。一碧湖畔の紅葉もそれはすばらしいと今日会員の方から聞きました。我が家の母屋の玄関脇の古木の紅葉もかつて美しかったのですが、最近は見ることがありません。目の保養は心の保養。日本の過ぎ行く秋に拍手!

日があたり もみじがきれい 空きれい

小学2年 金丸しずかさん(新潟県)作

本の紹介 文庫の本の中から紹介します!

『ドングリ山のやまんばあさん』 (富安陽子作 理論社 2002)

やまんばあさんは296さい。296さいだけど、ふつうのおばあちゃんとはくらべ物にならない、かいりきばあちゃん。子ガラスをのみこもうとしたヘビをきぜつさせたり、イノシシをかんたんにもちあげてしまう。しかも、車より速くはするのだ。そして、やまんばあさんは町のことをしらないので、風船をまんじゅうだとかんちがいて、わってしまったりもするけど、こんなおもしろいおばあちゃんなら、わたしは会ってみたいです。やまんばあさん、さい高!

伊東市立大池小学校 3年 片岡采夕
♥あやちゃんは、すごい読書家です。文庫で一番最初に400冊読破しました。ふだん、おとなしくてどこにいるのかわからないほどですが、本読みの情熱はすごいものがあります。この原稿も、文庫でさらっと書いてくれました。♥



『須賀敦子を読む』(湯川豊著 新潮社 2009)

by ダダッコ

「読んでみたら?」と須賀敦子の名前をはじめておしえてくれたのは、愛書家の女ともだちであったが、7年ほどまえに50代で旅立ってしまった。彼女の読んだ須賀の本がそっくり縁あって、わたしのもとにある。それなのに最近その本をあまり読んでいないことに気づいた。

須賀の編集者であった湯川豊のていねいに読み込まれた著作にはおおいそぎで目を通し、久しぶりに処女作「ミラノ霧の風景」と「コルシア書店の仲間たち」にひたってしまった。

須賀がいま生きておられたら80歳とは、信じがたい。本のなかの彼女は若々しく、好奇心にあふれている。50年代から10年以上をヨーロッパ、とくにイタリアで過ごし、4年間の結婚生活ののちイタリア人の夫に死に別れ、日本にもどり、それから20年ちかたつてから、はじめての本が出版された。

登場人物の多彩さ、神父様、編集者をはじめ、遺産として贈られたミラノ・スカラ座の棧敷席へかよいつめたという10代の少女。雨のなか外とうの襟をたて足早に先を急ぐ男、傘をわたそうと彼女は待っているのに。ナポリの野菜売りのおばさんとのやりとり…。

彼女の文章には去ってしまった時、場所、人などをいたむように悲しさがいつも流れてはいても、そのなかになんかワクワクした気持ちやうれしさをみつけた時の喜びが光っている。ときに彼女の誠実さがくじかれそうな異文化のなかにいる違和感についても彼女は書いていて、胸をつかれる。

彼女の思い出話は、ときに本や雑誌の伯爵夫人のゴシップ記事や小説などをおりませ、立体的にカラージュされ、文章はより複雑になり読み応えがある。(湯川説)

湯川本そっちのけで須賀敦子讚になってしまったが、それこそ湯川本がめざすところとおもう。当分は須賀の描いた石の道、石の階段、石文化に、イタリアにいたい。
★須賀敦子全集6巻、トリエステの坂道、ヴェネツィアの宿ほか、文庫在中。



佐野洋子さんの<文庫にある本>

子どもの本

わたしのぼうし(講談社) 100万回生きたねこ(講談社)おじさんのかさ(ポプラ社) サンタクロースはおばあさん(フレーベル館) 新装版わたし クリスマスツリー (講談社) おとうさんおはなしして(理論社)

おとなの本

ふつうがえらい(新潮文庫) 役にたたない日々(朝日新聞出版) シズコさん(新潮社) 神も仏もありませぬ(筑摩書房)

佐野さんが11月5日に亡くなりました。文庫の会員の間では1,2年前、彼女のエッセイがさかんに読みまわされました。私にとっては、絵本の作者として心に残っています。(西村)

新しく買った本

子どもの本

『うさこちゃんのゆめ』『うさこちゃんとにーなちゃん』(ディック・ブルーナ作 福音館書店)『ベンジーの毛布』(ブラウン作 ドロシー・マリノ絵 あすなる書房)『もりのおくのおちかいかいへ』(みやこしあきこ作 偕成社)『おかのうえのギリス』(マンロー・リーフ作 ロバート・ローソン絵)『ジョニーのかたやきパン』(ルース・ソーヤー作 マックロスキー絵 岩波書店)『ひとつ』(ハーシュマン作 ガリソン絵 福音館書店)『おばけやしきへようこそ!』(ストリード作 エリクソン絵 偕成社)『おおかみのおいしゃさん』(オルガ・ルカイユ文絵)『おねえちゃんはどこ?』(スヴェン・ノルドクウィスト作 岩波書店)『リヤ王と白鳥になった子どもたち』(キアラハン作 スピリン絵 富山房インターナショナル)

★ここまで絵本

『うごく』(たかはしきよし文・絵)『ふねがきた!』(笹野裕一さく)『びっくり まつぼっくり』(多田多恵子ぶん 堀川理万子え 福音館書店)『神様の階段』(今森光彦著 偕成社)『野の花絵本 秋と冬の花』(前田まゆみ作 あすなる書房)『やさいむらのなかまたち 秋』『やさいむらのなかまたち 冬』(ひろかわさえこさく 偕成社)『おとがいっぱい』(たちもとみちこ・さく ブロンズ新社)『まるごとクリスマス』(コダシマアコ作 かもがわ出版) ★ノンフィクション絵本

『ケンケンとムンムン』(なんぶかずや文 たしませいぞう絵)『ひぐれのラッパ』(安房直子作)『それほんとう?』(松岡享子ぶん 長新太絵 福音館書店)『もりのたいしょうははりねずみ』(モーラ・フェレンツさく 偕成社)『フォスターさんの郵便配達』(エリアセル・カンシーノ作 偕成社)『雲じゃらしの時間』(マロリー・ブラックマン作 あすなる書房)『おとまりさんは魔女』(ジョン・エイキン作 岩波少年文庫)『この世のおわり』(ラウラ・ガジェコ・ガルシア作 偕成社)『石の花』(バジョーフ作 集英社) ★以上、読み物

♥いただきました。

『セーラーとペッカ、町へいく』『セーラーとペッカ、似た者どうし』(ヨックム・ノードストリウム作 偕成社)『まじよにはクッキーおとうとうさぎ!』(ヨンナ・ビョルンシェーナ作 クレヨンハウス)『ノーラ、12歳の秋』(アニカ・トル作 小峰書店)『マンガニニのはてしない旅』(ベス・ロバーツ作 岩波書店)『14歳の君へ』(池田晶子 毎日新聞社)